

鏡川流域パートナーシップだより No.283 R8.8.7



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

朝倉地域で湧水や生きものを探しました！

7月28日(火)、第14回「川から始める地方再生サミット@高知・鏡川」が開催されました。今回は「**朝倉でシジミ探索&湧水を探そう**」と題し、現地調査イベントを実施しました。本イベントは、「朝倉地域の水路にはシジミがいるらしい！」という話を聞き、「特定非営利法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト」代表・水谷要さん(東京都在住)や高知大学大学院博士課程2年・中川幹大さんが中心となって企画しているもので、今回で3回目の開催でした。

平日にもかかわらず、鏡川流域関係人口の方々や高知大学の学生など、**8名**が参加しました♪



イベントの様子



事前に地域の方に教えてもらった目的地(朝倉城址の南側にあたる「水久谷」)を目指して出発！道中で見つけた水路の様子も確認しました。その光景を見ていた地域の方が話しかけてくれ、お話を伺うことができました！「確認していた水路は下の部分がコンクリートなので、シジミはいないのではないか」とのこと。



水谷さんが代表を務める「特定非営利法人ウォーターズ・リバイタルプロジェクト」は、**リバーブランディング**(川を起点に地域の稼ぐ力と地域プロモーションを創造すること)を通じて、地方再生の取組を進めています。水谷さんの取組の記録や地方再生についての検討などを、著書「川から始める地方再生」に記しています。

当日は快晴の真夏日であり、水路の水温を測ってみると、**33.6℃**もありました！

水路には、小魚やアメンボなどが泳いでおり、その様子を見た参加者からは、「シジミもいるかも！」といった期待する声が聞こえてきました！しかし、この水路では、淡水シジミと思われる小さな貝殻は見つかりましたが、生きたシジミは確認できませんでした。



目的地に到着すると、話に聞いていたとおり、湧水を発見！湧水の水温は **19.8℃** で、道中の水路と比較するとかなり低いといえます。また、生きものを探したところ、サワガニが何匹も見つかりました！水量はそれほど多くありませんでしたが、生きものが生息しており、水は安定的にあるように思われました。



こちらは道中の水路で発見した小さな淡水シジミの貝殻です。見つかる可能性があると考えられた目的地の湧水では、シジミを見つけることはできませんでした。

しかし、いろいろな水辺の生きものや地域の方との新しい出会いがあり、充実したイベントとなりました^^



イベント情報は、まちのコイン「ぼっちり」にも掲載

一度参加すると、リピーターになってくれる方が多いイベントです！誰でも気軽に参加できるイベントなので、興味のある方は、ぜひご参加ください！



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつなぐ山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone



Android